

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年3月31日
期末配当	毎年3月31日
中間配当	毎年9月30日
上場証券取引所	東京証券取引所 札幌証券取引所
公告方法	電子公告により行う (http://www.hokkanholdings.co.jp/)に 掲載いたします。ただし、事故その他やむを得 ない事由により電子公告をすることができな いときは、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	☎0120-782-031
インターネット ホームページURL	http://www.smtb.jp/personal/agency/ index.html

株主優待のお知らせ

毎年3月31日(基準日)現在の株主名簿に記載された株主様に対し、当社グループの容器に入った缶詰を年1回、以下のとおり贈呈いたします。

贈呈基準

所有株式数	ご優待内容
1,000株以上5,000株未満	2,000円相当の缶詰詰合せ
5,000株以上10,000株未満	3,000円相当の缶詰詰合せ
10,000株以上	5,000円相当の缶詰詰合せ



HOKKAN HOLDINGS

ホッカホールディングス株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内二丁目2番2号
TEL 03-3213-5111 (代表)

URL: <http://www.hokkanholdings.co.jp/>

各種お手続きについて

【株式に関する住所変更等の お手続きについてのご照会】

証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。

証券会社の口座をご利用でない株主様は、左記電話照会先までご連絡ください。

【未払配当金の支払について】

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

【「配当金計算書」について】

配当金のお支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認をお願いします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をされる株主様は大切に保管ください。

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である左記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます。)を開設しております。

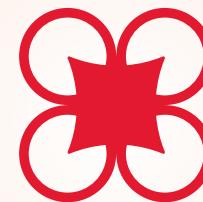
特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、左記の電話照会先をお願いいたします。



この冊子は環境への配慮のため、FSC森林認証紙とベジタブルオイルインキを使用しています。

ホッカホールディングス株式会社

(証券コード:5902)



HOKKAN HOLDINGS



株主の皆様へ

HOKKAN REPORT

Vol.23

第92期 株主通信

2016年4月1日～2017年3月31日

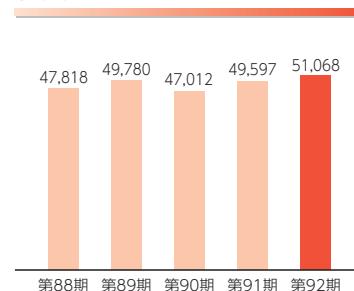
売上高 (単位: 百万円)



親会社株主に帰属する
当期純利益 (単位: 百万円)



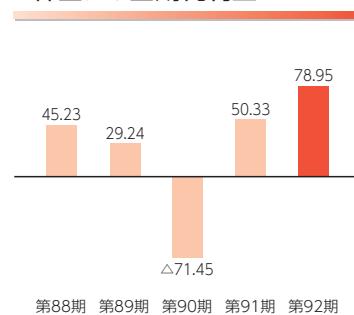
純資産 (単位: 百万円)



営業利益 (単位: 百万円)



1株当たり当期純利益 (単位: 円)



ROE (単位: %)



経常利益 (単位: 百万円)



総資産 (単位: 百万円)



ROA (単位: %)



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、第92期(2016年4月1日から2017年3月31日まで)の営業概況ならびに計算書類につき、ご報告申し上げます。

事業の経過および成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益が高水準で推移するなか、企業の設備投資に持ち直しの動きが見られるなど緩やかな回復基調となりました。また、個人消費につきましても雇用や所得環境の着実な改善を背景に、消費者マインドに持ち直しの動きが見られるなど、底堅く推移する結果となりました。

当連結会計年度における清涼飲料業界の状況につきましては、西日本地区における夏場の猛暑等により、ミネラルウォーター等を中心に国内市場全体が押し上げられたため、清涼飲料業界全体では前年を上回る結果となりました。

カテゴリー別では、炭酸飲料やスポーツドリンクが前年並みの推移となりましたものの、ミネラルウォーターや緑茶・麦茶等の茶系飲料が前年を大幅に上回る結果となりました。

また、コーヒー飲料につきましては、通常缶がコンビニエンスストアで展開されるカウンターコーヒーの影響等により前年を下回りましたものの、リシール缶(ボトル缶)は無糖系ブラックコーヒーを中心に販売が好調であり、前年を上回る結果となりました。

食品缶詰業界の状況につきましては、水産缶詰ではサ



代表取締役社長

工藤 常史

ンマをはじめとする一部水産原料の高騰に伴う製品価格の値上げにより販売が減少しましたものの、イワシやサバについては豊漁により販売が堅調でありましたため、結果としては前年並みに推移いたしました。

また、農産缶詰につきましても8月以降に発生した相次ぐ台風により、農産原料の確保に影響はありましたが、輸入原料を中心とした増産対応等により前年並みに推移する結果となりました。

事業別の概況

容器事業

(メタル缶)

①飲料缶・食品缶

飲料用スチール空缶につきましては、主力の缶コーヒーがカウンターコーヒーの普及拡大や一部お客様のアルミ缶化の影響等を受けましたものの、当社グループの主要なお客様において販売が好調でありましたため、飲料用スチール空缶全体では前年を上回る結果となりました。

一方、食品缶詰用空缶につきましては、農産缶詰では、8月に発生した台風被害により北海道地区の主力のスイートコーン缶が大幅に減少したこと等により、前年を下回る結果となりました。また、水産缶詰では、サバ等の販売が堅調でありましたものの、その他の水産原料につきましては、原料の不足による製品価格の値上げ等の影響により減産となり、前年を下回りましたため、食品缶詰用空缶全体では前年を下回る結果となりました。

②その他

エアゾール用空缶につきましては、主力の殺虫剤関連製品が好調であり、また、燃料ポンベ缶の受注拡大や工業用品、塗料等の一般缶につきましても順調に推移したため、前年を上回る結果となりました。

美術缶につきましては、ギフト関連商品市場が低迷する等、市場環境が厳しいものの、新規商品の受注や既存製品の販売が堅調に推移しましたため、美術缶全体では前年を上回る結果となりました。

(プラスチック容器)

①飲料用ペットボトル

飲料用ペットボトルにつきましては、お客様による内製化拡大の影響等により、前年を下回る結果となりました。しかしながら、プリフォーム(ボトル成形前の中間製品)につきましては、積極的な営業活動を展開したことにより前

年を大きく上回りましたため、プリフォームを含む飲料用ペットボトル全体では前年を上回る結果となりました。

②食品用ペットボトル

食品用ペットボトルにつきましては、贈答用商品の販売が減少しましたものの、当社グループにおいて新規開発したスクイズ機能ボトル(くびれプッシュボトル)の販売が好調に推移しましたため、食品用ペットボトル全体では前年を上回る結果となりました。

③その他

一般成形品につきましては、化粧品用や農薬・園芸用品の販売が減少しましたものの、日用品用やヘルスケア用の新商品の受注等により前年を上回る結果となりました。また、バッグインボックスにつきましては新工場が稼働を開始したものの、お客様による販売が減少したことにより受注が前年を下回りましたため、一般成形品全体では前年を下回る結果となりました。

以上の結果、容器事業全体の売上高は、428億92百万円(前年度比1.4%増)となり、営業利益は27億94百万円(前年度比27.5%増)となりました。

充填事業

(缶製品)

缶製品につきましては、コーヒー飲料では、リシール缶(ボトル缶)は新ラインの稼働もあり好調に推移しましたものの、通常缶はカウンターコーヒーの普及拡大の影響により販売が減少したため前年を下回り、また、炭酸飲料につきましては、ラインを撤去した影響により前年を大きく下回る販売となりましたため、缶製品全体では前年を下回る結果となりました。

(ペットボトル製品)

ペットボトル製品につきましては、アセプティック(無菌充填)を含む大型ペットボトルでは、西日本地区を中心とした夏場の猛暑によりミネラルウォーター等が順調に推移しましたものの、大型・小型兼用ラインにおいて小型ペットボトル製品を優先して製造したことにより、前年を

下回る販売となりました。アセプティック(無菌充填)を含む小型ペットボトル製品は、夏場の好天等により販売が好調に推移し、また、お客様の新製品の受注もありましたため前年を大幅に上回り、ペットボトル製品全体では前年を上回る結果となりました。

以上の結果、乳製品受託製造販売を営むくじらい乳業株式会社を加えた充填事業全体の売上高は707億3百万円(前年度比3.5%増)となり、営業利益は56億79百万円(前年度比69.1%増)となりました。

機械製作事業

機械製作事業につきましては、自動車部品生産設備やリチウム電池製造設備の受注等がありましたが、大型案件の受注等が減少した影響により機械製作事業全体の売上高は28億97百万円(前年度比11.9%減)となり、営業利益は1億74百万円(前年度比53.2%減)となりました。

その他

インドネシアにおいて、容器(ペットボトル)製造から内容物の充填までを一貫しておこなうPT.HOKKAN INDONESIA(ホッカニ・インドネシア)では、主要なお客様の新規商品を獲得するなど積極的な営業活動を進めましたが、一部のお客様による内製化の影響等により前年を下回る販売となりました。また、ベトナムにおいて清涼飲料の受託充填事業を営んでおりますNIHON CANPACK(VIETNAM)CO.,LTD.(日本キャンパック・ベトナム)は、同国の雨季の長期化による天候不順等が影響したため、前年を下回る販売となりました。

化粧品等製造販売を営む株式会社コスメサイエンスは、お客様の新製品受注や新たなお客様との取引開始により、前年を上回る販売となりました。

以上の結果、工場内運搬作業等をおこなっております株式会社ワーク・サービスを加えたその他全体の売上高は55億82百万円(前年度比7.5%減)となり、営業損失は1億10百万円(前年度は営業損失2億32百万円)となりました。

以上により、当連結会計年度における売上高は1,220億75百万円(前年度比1.8%増)、営業利益は75億7百万円(前年度比63.5%増)、経常利益は87億32百万円(前年度比52.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は49億87百万円(前年度比47.3%増)となりました。

対処すべき課題

来期のわが国経済の見通しにつきましては、世界的な政情不安等により景気の先行きは不透明感が増すものと思われ、また、当社グループを取り巻く今後の環境につきましては、為替の変動および原材料価格、エネルギーコストの高騰並びに競合他社との厳しい競争が続くものと思われれます。

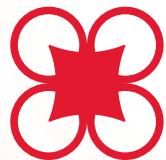
このような状況のなかで、当社グループでは引き続き既存事業で経営基盤をしっかりと支えるとともに、新規事業・海外事業を成長のエンジンとして位置づけ、業績の向上に向け邁進していく所存であります。

また、当社は昨年、東洋製罐グループホールディングス株式会社と経営統合に関する基本合意書を締結いたしております。(本発表内容につきましてはインターネット上の当社ウェブサイト(アドレス<http://www.hokkanholdings.co.jp/>)に掲載しております。)

現在も本経営統合に向け、関係当局と協議を継続しており、確定次第、速やかにお知らせいたします。

株主の皆様におかれましては、今後ともご理解と一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。





HOKKAN HOLDINGS

ホッカホールディングスは
グループ事業会社全体の力を統合し、
さらに高いレベルの
「ものづくり力」を追求します。

当社は持株会社として、各事業を強化するとともに、
グループ企業とのアライアンスの発展を図ってまいります。
そして、「最大より最高」をモットーに、
品質と価格の両面を併せ持つ
「ものづくり力」を高めてまいります。



OS MACHINERY

機械製作

2017年3月期売上高

28億97
百万円

北海製罐株式会社や株式会社日本
キャンパックで使用する超精密度の金
型から製造機械、総合一般の製造ライ
ンまで提供する機械メーカーです。

オーエスマシナリー株式会社

KE・OSマシナリー株式会社

「オーエスプレシジョンオレンジ」は、超精密
度を追求する同社の各種金型と各種製造機
械の安全性を表しています。



NIHON CANPACK

充填

2017年3月期売上高

707億3
百万円

大手ブランドの飲料を空缶やペットボトル
に充填する受託充填企業です。調合から物
流までを請け負う総合力を持っています。

株式会社日本キャンパック

株式会社西日本キャンパック
くじらい乳業株式会社
日本キャンパック・マレーシア
日本キャンパック・ベトナム

「キャンパックアクアブルー」は、良質の水に恵まれた工場
を持つ同社のメリットから、品質と潤いを表しています。



HOKKAI CAN

容器製造／販売

2017年3月期売上高

428億92
百万円

食品用、飲料用などの空缶、ペットボトルな
どのプラスチック容器の開発、生産、販売な
ど幅広くおこなっています。

北海製罐株式会社

東都成型株式会社 日東製器株式会社
昭和製器株式会社 株式会社ワーク・サービス
株式会社コスメサイエンス
PT.ホッカカン・インドネシア

「ホッカカンエバーグリーン」は、同社のルーツ
である北海道の大地を象徴する緑、永遠の若
さ、生命力を表しています。

株式会社日本キャンパック バイオガス発電所



NIHON CANPACK

株式会社日本キャンパックでは、バイオマス*発電のひとつであるバイオガス(メタンガス)発電所を2015年1月より運用開始しております。

この発電所は、飲料製造設備から排出される生産粕(コーヒー粕・茶粕)や場内排水処理設備から排出される脱水汚泥を原料として発酵処理し、再生可能エネルギーのひとつであるバイオガスを生成、発電を行うエネルギープラントです。

*バイオマスとは、生物資源(bio)の量(mass)を表す概念で、一般的には「再生可能な、生物由来の有機性資源で化石燃料を除いたもの」をバイオマスと呼びます。

【バイオガス生成から発電まで】

前処理槽(残渣投入口)



バイオ発酵タンク



汚泥・排水

バイオガス

除湿

硫化
水素

発電機(エンジン)収納コンテナ



「バイオ発酵タンク」は、投入された原料のメタン発酵処理を行う設備です。ここで生成されたバイオガスは、「ガスクーラー」で除湿され、「脱硫塔」にて硫化水素を除去され、燃料として「発電機(エンジン)」へ供給されます。

発電
(電力会社へ)

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	第92期 2017年3月31日現在	第91期 2016年3月31日現在
資産の部		
流動資産	40,781	42,728
現金及び預金	2,325	2,155
受取手形及び売掛金	23,634	23,752
電子記録債権	2,838	2,633
たな卸資産	8,711	8,695
繰延税金資産	656	683
その他	2,643	4,828
貸倒引当金	△29	△20
固定資産	86,352	89,373
有形固定資産	61,431	62,553
建物及び構築物	22,613	23,558
機械装置及び運搬具	18,924	18,748
土地	15,903	16,072
リース資産	2,855	2,596
建設仮勘定	584	1,050
その他	549	527
無形固定資産	983	1,177
投資その他の資産	23,937	25,641
投資有価証券	21,448	22,478
長期貸付金	183	757
繰延税金資産	9	21
退職給付に係る資産	436	522
その他	2,043	2,130
貸倒引当金	△183	△267
資産合計	127,134	132,101

科目	第92期 2017年3月31日現在	第91期 2016年3月31日現在
負債の部		
流動負債	42,861	40,123
支払手形及び買掛金	17,766	18,245
短期借入金	14,568	11,623
リース債務	444	579
未払法人税等	1,990	1,606
賞与引当金	898	832
その他	7,193	7,236
固定負債	33,204	42,381
長期借入金	26,768	37,175
リース債務	1,221	648
繰延税金負債	1,233	841
退職給付に係る負債	3,067	3,025
その他	913	690
負債合計	76,065	82,504
純資産の部		
株主資本	44,555	41,649
資本金	11,086	11,086
資本剰余金	11,070	10,744
利益剰余金	24,352	19,847
自己株式	△1,954	△29
その他の包括利益累計額	4,879	3,946
その他有価証券評価差額金	5,679	5,008
繰延ヘッジ損益	11	△69
為替換算調整勘定	67	108
退職給付に係る調整累計額	△878	△1,100
非支配株主持分	1,633	4,001
純資産合計	51,068	49,597
負債純資産合計	127,134	132,101

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	第92期 2016年4月1日から 2017年3月31日まで	第91期 2015年4月1日から 2016年3月31日まで
売上高	122,075	119,923
売上原価	101,169	102,559
売上総利益	20,906	17,364
販売費及び一般管理費	13,398	12,771
営業利益	7,507	4,593
営業外収益	1,804	1,846
営業外費用	579	706
経常利益	8,732	5,732
特別利益	853	1,964
特別損失	1,526	1,830
税金等調整前当期純利益	8,059	5,867
法人税・住民税及び事業税	2,695	1,785
法人税等調整額	101	248
法人税等合計	2,796	2,033
当期純利益	5,262	3,833
非支配株主に帰属する当期純利益	275	448
親会社株主に帰属する当期純利益	4,987	3,384

連結株主資本等変動計算書(要旨)

第92期(2016年4月1日から2017年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	11,086	10,744	19,847	△29	41,649	5,008	△69	108	△1,100	3,946	4,001	49,597
当期変動額												
剰余金の配当			△481		△481							△481
親会社株主に帰属する当期純利益			4,987		4,987							4,987
自己株式の取得				△1,925	△1,925							△1,925
持分法適用会社に対する持分変動に伴う自己株式の増減				1	1							1
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		325			325							325
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						670	81	△41	222	932	△2,367	△1,434
当期変動額合計		325	4,505	△1,924	2,906	670	81	△41	222	932	△2,367	1,471
当期末残高	11,086	11,070	24,352	△1,954	44,555	5,679	11	67	△878	4,879	1,633	51,068

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	第92期 2016年4月1日から 2017年3月31日まで	第91期 2015年4月1日から 2016年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,714	12,953
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,002	△12,089
財務活動によるキャッシュ・フロー	△12,543	305
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	△32
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	170	1,137
現金及び現金同等物の期首残高	2,155	930
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	87
現金及び現金同等物の期末残高	2,325	2,155

株式の状況 (2017年3月31日現在)

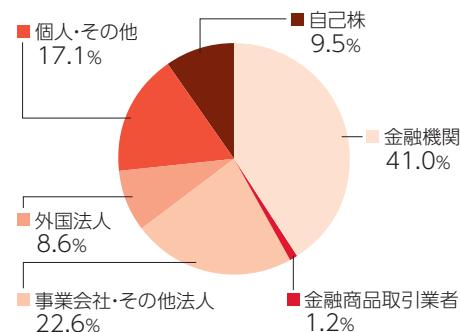
発行可能株式総数	240,000,000株
発行済株式の総数	67,346,935株
株主数	4,713名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本生命保険相互会社	3,274	5.37
株式会社みずほ銀行	2,973	4.88
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,868	4.71
農林中央金庫	2,000	3.28
東京海上日動火災保険株式会社	1,805	2.96
株式会社北海道銀行	1,765	2.90
ホッカホールディングスグループ取引先持株会	1,693	2.78
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,605	2.63
JFEスチール株式会社	1,565	2.57
株式会社メタルワン	1,300	2.13

(注1) 持株数は千株未満を切捨てて表示しております。
 (注2) 当社は自己株式6,393,424株を所有していますが、上記大株主からは除いております。
 (注3) 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別分布状況



会社概要 (2017年3月31日現在)



商号	ホッカホールディングス株式会社 HOKKAN HOLDINGS LIMITED
本社	東京都千代田区丸の内二丁目2番2号 丸の内三井ビル TEL03-3213-5111
設立	1950(昭和25)年2月1日 (創立 1921(大正10)年10月23日)
資本金	110億8,652万4,995円
従業員数	30名
事業内容	(1)各種空罐、容器の製造販売 (2)清涼飲料水・酒類その他各種飲料の受託充填および販売 (3)乳製品・菓子類の受託製造販売 (4)レトルト食品の受託製造販売 (5)各種化粧品受託製造販売 (6)各種機械の製造販売 (7)機械器具設置工事業 (8)倉庫業 (9)土木・建築工事の設計、施工請負

役員 (2017年3月31日現在)



取締役社長 (代表取締役)	工藤 常史 (前列中央)	取締役(社外)	田中 弘 (後列右から2番目)
常務取締役	山崎 節昌 (前列右から3番目)	取締役(社外)	安藤 信彦 (後列右から1番目)
常務取締役	池田 孝資 (前列左から3番目)	常勤監査役	竹田 由里 (後列右から3番目)
取締役	久保田 裕一 (前列右から2番目)	監査役	寺嶋 勉 (後列左から3番目)
取締役	藤本 良一 (前列左から2番目)	監査役(社外)	新名 孝信 (後列左から2番目)
取締役	小池 明夫 (前列右から1番目)	監査役(社外)	田代 宏樹 (後列左から1番目)
取締役	武田 卓也 (前列左から1番目)		